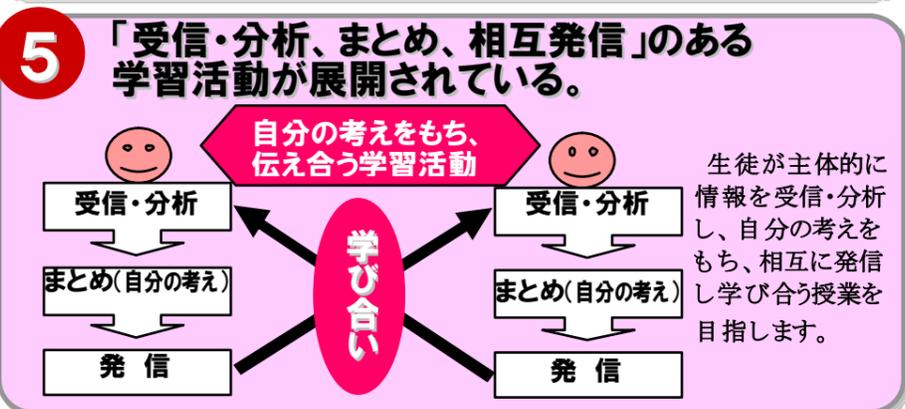


「授業改善推進プラン」全体計画

学習指導要領の基となる学校教育法、その第30条には、いわゆる学力の主要素として「基礎的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」が規定されている。これらは、生徒たちが生涯にわたり学習する基盤である。このことを踏まえ、教師と生徒の両視点から、授業づくりの要諦をまとめた。教師の視点は「力が付く授業」、「力」とは「基礎的な知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」です。生徒の視点は「学びがいのある授業」、学習意欲がわく授業である。各教科等の「授業改善推進プラン」の立案等の指針として活用されたい。

【教師の視点】力の付く授業

- 1 生徒に身に付ける「力」が明確になっている。**
 - ねらいの焦点化 ● 単元、本時のねらいに身に付ける「力」を明記
それぞれの学習活動を通してどのような力が身に付くかを明確にします。活動自体を目的とせず、活動を通して「力」を付けることをねらいとします。
 - 効果的かつ自覚的な学習活動の展開
生徒たちが、活動を通してどのような力が付くのか分かるようにします。
- 2 「力」を付ける手だてが準備されている。**
 - 言語活動 ● 個に応じた指導 ● 問題解決的な学習 等
指導の工夫が、当該教科等に固有のねらいの達成に結び付くようにします。
- 3 「教えて考えさせる指導」が行われている。**
 - 教えることと考えさせることの明確な区別
 - より分かりやすく教える工夫
 - 教えることと考えることを関連付ける指導の手だて
「教える」ことは、生徒が自ら学び考えるために必須です。教えるべきことを分かりやすく教え、それらを活用して考えさせることが重要です。
- 4 「力」が付いたかどうか、適切に評価され、指導に生かされている。**
 - 適切な評価基準の設定と活用
評価基準とは、「力を付けた(観点別評価Bの)生徒の姿」です。
 - 観点別学習状況の評価A及びCの生徒に対応する手だて
具体的な子供の姿と、それぞれに対する具体的な手だてを準備します。



授業前

- 生徒に身に付く「力」を、学習指導要領の指導事項を基に明らかにしていますか。……………【教師①】
- 生徒に「力」を付けるため、個に応じた指導や体験的な学習、問題解決的な学習等の機会を設定していますか。……………【教師②】
- 生徒に「教えること」と「考えさせること」を峻別した上で、両者を関連付ける指導の手だてを工夫していますか。……………【教師③】
- 生徒たちの知的好奇心を喚起し、探究のしがいが高めるために、教材研究を行っていますか。……………【生徒③】
- 評価基準を「力を付けた生徒の姿」として捉え、分かりやすく設定していますか。……………【教師④】
- 国際的な読解力を養うため、生徒が教材の内容を受信・分析するだけでなく、自分の考えをまとめ、発信し合う学習過程を設けていますか。……………【教師⑤】
- 話し合う前後の一人一人の考えの変容を重視していますか。……………【教師⑤】
- ワークシートを作成する際、生徒たちが自分の考えを文章で書き込む欄を設けていますか。……………【生徒②】

授業中

- 導入段階で、身に付ける「力」とその価値、学習活動の留意点を、生徒の発達段階に応じて分かりやすく説明していますか。……………【生徒①】
- ノート指導では、生徒たちが自分の考えの変容を記すことを重視していますか。……………【生徒②】
- 当該教科が得意な生徒、苦手な生徒の立場に立ち、個に応じた指導を行っていますか。……………【生徒④】
- 個人内評価を重視し、生徒一人一人のよさや可能性、進歩の状況などを積極的に評価していますか。……………【生徒⑤】

授業後

- 生徒のノートの記述等から、一人一人の目標の達成状況を把握していますか。……………【教師④】
- 手だての有効性について検証していますか。……………【教師④】
- 本時の学習評価を、次時の学習過程や指導内容・指導方法の工夫に生かしていますか。……………【教師①～⑤】【生徒①～⑤】

【生徒の視点】学びがいのある授業

- 1 身に付く「力」とその価値が分かる。**
 - 実社会や実生活との関わりの重視
生徒たち自身が、当該の学習によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのかについて、理解して学習を進めることにより、より高い学習効果が期待されます。
- 2 学び方が分かる。**
 - 穴埋め形式のワークシートから、思考を促すシンキングシート、そしてノート指導へ
主体的に「自分の考え」を記述する生徒を育てるとともに、自学自習を促進します。
 - ノートは思考の足跡
友達の考えや新しい発見を加えながら、「自分の考え」を残していくことが大切です。
- 3 教材が魅力的である。**
 - 知的好奇心を喚起するものであること
 - 探究のしがいがあること
生徒の実態に照らして十分に吟味するとともに、ねらいの実現に向けてどのように取り扱うと効果的であるか、教材研究を深めます。
- 4 適度な難易度である。**
 - 苦手な生徒、得意な生徒の立場に立つ
 - 習熟度に応じた指導
 - 個に応じた指導
適度な難易度とは、生徒の力のレベルよりもやや上のレベルを指します。
- 5 頑張れば、認めてもらえる。**
 - 生徒と教師の信頼関係の確立
 - 認め合い、支え合い、励まし合う学習集団の風土の醸成
 - 個人内評価の重視

不安 ← やればできる (自己効力感) → 伸びている (自己成長感) → 役立っている (自己有用感) → 安定 (自尊感情を育む)

「やればできる」、「伸びている」、「役立っている」という実感をもたせることで、学習に集中できる安定した心情を育みます。